

# フォトロゲイニング 大会前チェックリスト（地図・CP一覽）

## 参考) チェックのタイミング

(時期は目安)		2ヶ月前					1ヶ月前					
企画	CP候補	現地調査、撮影	CP選定	解説作成	配点	試走版	試走	入稿版	印刷	大会	結果	
		CP利用許可取り										
A(申請)		F(1回目)				A(確認),B,C,D,E	F(2回目)		G			

\*監修者登録後の初めての大会申請では、以下のチェックを済ませた予定稿を提出してください。

\*印は末尾に補足あり

## A) 大会要項の確認

## B) 地図(基本)

✓	チェック項目
	1. 大会名が記載されている
	2. 開催日が記載されている
	3. 縮尺が記載されている*(「電子地形図 25000」は縮尺ではないことに注意)
	4. 等高線間隔が記載されている
	5. スタートが△で示されている
	6. フィニッシュが◎で示されている(スタートと同じ場所なら省略可)
	7. チェックポイントが○(同サイズの正円)と中心点で示されている*
	8. 得点が数字で示されている
	9. 既知の立ち入り禁止エリアが示されている
	10. フォトロゲの記号色は赤～紫系で、地図と明瞭に区別できる
	11. 磁北線が正しく引かれている*
	12. 北方向を示す記号がある*
	13. 国土地理院の地図等、出典が記載されている(例:電子地形図 25000(国土地理院)を加工して作成)*
	14. 「フォトロゲイニング◎は日本フォトロゲイニング協会の登録商標です。」という文言と、大会の「承認番号」の記載がある。

## C) 地図(詳細)

✓	チェック項目
	1. 地図上のチェックポイントは、得点の数字を用いてチェックポイント一覧の写真と1対1で照合できる(地図のみ、写真のみというチェックポイントがない)
	2. 得点の数字はそれぞれで異なる(同じ数字が2つ以上使われていない)
	3. フォトロゲの記号凡例、地図記号の凡例がある*
	4. 記号や凡例は地図の読み取りに差し支えない位置にある*
	5. 記号及びチェックポイント間の最短ルートが、地図の印刷範囲外でない

## D) チェックポイント一覧

✓	チェック項目
	1. 「チェックポイント名」「得点」「写真」「解説」からなる
	2. 得点の小さい順番に配置されている
	3. メンバーを写しこめるアングルである*
	4. 緊急時の連絡先が記載されている

## E) 特別ルール

✓	チェック項目
	1. 歩く、走る以外の乗り物を許可する場合、地図かチェックポイント一覧に明記されている
	2. チェックポイントで撮影する以外の加点(ボーナスポイント)がある場合、地図かチェックポイント一覧に「獲得方法」「得点」が明記されている
	3. ボーナスポイントへの配分は総得点の5%以内である*

## F) 現地の確認\*

✓	チェック項目
	1. チェックポイントの位置は○の中心である(○の"範囲内"ではなく、"中心")*
	2. 参加者が地図を元に正しくナビゲートした結果として、撮影対象を難無く発見できる
	3. 優勝者が大半を回れるが全ては回れない程度にチェックポイントが設定されている*
	4. 撮影対象と撮影者の位置が大きく違う場合は、撮影者の位置が○の中心である

## G) 印刷物

✓	チェック項目
	1. 長時間の屋外での使用に適した紙質である*
	2. 地図は明快に読み取ることができる解像度である
	3. 地図の縮尺が正確である*
	4. チェックポイント一覧は明快に読み取ることができる解像度、フォントサイズである
	5. 地図、チェックポイント一覧が水分や損傷に耐えるよう、ビニール封入などがされている
	6. 配布物は参加人数分の用意がある

**優先度:安全>競技>演出**

例外を設ける場合は、具体的な内容を協会へ相談、および参加者へ周知してください。

## 補足

## B-3.縮尺が記載されている\*

「電子地形図 25000」は地図の種類で、縮尺ではないことに注意。「縮尺 1:XXXXX」または「1:XXXXX」と明記する。例)縮尺 1:25000

## B-7.チェックポイントが○(同サイズの正円)と中心点で示されている\*

円の直径(外縁)は実寸の150m、または縮尺に関わらず6mm程度



例)

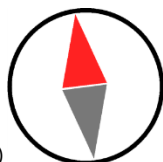
B-11.磁北線が正しく引かれている\*

参考) [地理院地図で磁北線を表示してみる](#)

参考) [任意の地点の最新の地磁気の値を求める](#)



B-12.北方向を示す記号がある\*



例)



例)

磁北線と合わせて使用。矢印のみでも可。

B-13.国土地理院の地図等、出典が記載されている(例: 電子地形図 25000(国土地理院)を加工して作成)\*

※国土地理院の地図等を利用する際は、出典を記載してください。

参考) [出典の記載 | 国土地理院](#)

令和元年 12 月 10 日「地図等の利用手続の運用改正」により、「フォトリゲイニング」の地図では国土地理院への測量成果の複製・使用の承認申請は不要になりましたが、出典は記載してください。

B-14.「フォトリゲイニング®は日本フォトリゲイニング協会の登録商標です。」という文言と、大会の「承認番号」の記載がある。



例)

C-3.フォトリゲの記号凡例、地図記号の凡例がある\*

地図上が望ましいが、十分なスペースがない場合は別紙でも可。

C-4.記号や凡例は地図の読み取りに差し支えない位置に置かれている\*

ルートやチェックポイント自体を隠さないよう、記号は透過し、追加は最小限にすることが望ましい。



良い例)



悪い例)

D-3.メンバーを写しこめるアングルである\*

例外的にメンバーを写しこめないアングルを指定する場合は、「メンバーを写しこまなくて良い」ことを解説に明記する。

E-3.ボーナスポイントへの配分は総得点の 5%以内である\*

1000 点満点であれば、通常点 950 点+ボーナス点合計 50 点までが上限。

F.現地の確認\*

初回の「現地調査、撮影」を監修者以外の者が行った場合、「試走」は監修者が独立して行い、F の項目を監修者としての責任をもってチェックすること。

F-1.チェックポイントの位置は○の中心である(○の”範囲内”ではなく、”中心”)\*



撮影対象:左図の青点 撮影者の位置:左図の赤点

チェックポイントの位置(この場合は撮影者の位置)が○の中心にあること

悪い例)円の範囲内にチェックポイントがあれば良いという解釈は間違い

悪い例)地図の位置が違っていたら写真を元に探せばよいという解釈は間違い

F-3.優勝者が大半を回れるが全ては回れない程度にチェックポイントが設定されている\*

制限時間に対して、チェックポイントの範囲・設定バランスを適切にするための項目である。

広すぎ…遅刻の多発、誰も行かないチェックポイントの発生、調査が不十分になる恐れ

狭すぎ・密集…満点が多発すると配点の大小の意味がなくなり、ゲームとしての面白さが損なわれる

制限時間が違う2クラスを同じ地図で行う場合は、長いクラスを想定して設定する。

例)3時間と5時間を同一の地図で行う場合、5時間を想定して設定する

G-1.長時間の屋外での使用に適した紙質である\*

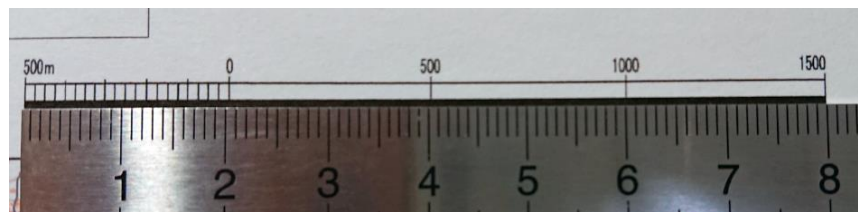
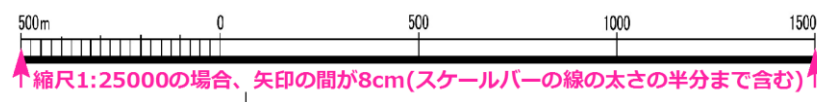
【非推奨】普通紙(コピー用紙、PPC用紙)耐水性が低いので印刷がにじんだり、紙がよれたりする

【推奨】コート紙 90kg、マットコート紙 90kg、耐水紙など。

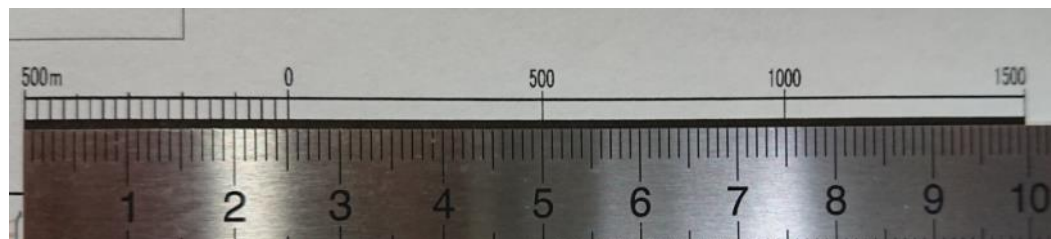
G-3.地図の縮尺が正確である\*

「電子地形図 25000」の右上スケールバーでの確認方法

縮尺 1:25000(「電子地形図 25000」を元のサイズで印刷)→スケールバーの 2000m は印刷物上で 8cm



縮尺 1:20000(縮尺 1:25000 を 1.25 倍に拡大)→スケールバーの 2000m は印刷物上で 10cm



以上